

2023 年度企画展

# 「西南学院と干隈の思い出 － 大学設立構想から憩いの場の記憶」

宮川 由衣

会 期：2023 年 3 月 1 日（水）～ 12 月 19 日（火）

会 場：西南学院百年館（松緑館）1F 企画展示室

主 催：学校法人西南学院

協 力：株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所

## 開催概要

西南学院は、1937 年に中学部、高等学部に加えて大学設立の方針を固め、ヴォーリズ建築事務所に依頼し、西南学院バプテスト大学の構想を明らかにした。その候補地として早良郡田隈村干隈の高台地区を適当と認め、買収を進める。しかし、戦争の影響による国際関係の悪化により、敷地の取得にとどまり、この構想は実現には至らなかった。戦後、1955 年に神学科が西新校地から干隈校地に移転し、2001 年に再び西新校地に移転するまでの約 45 年間、この地で多くの学生が学んだ。また、干隈校地にはグラウンドや修養会館が建てられ、憩いの場として愛された。1999 年に干隈校地は福岡市に譲渡売却され、その跡地は「西南杜の湖畔公園」として新たな憩いの場になっている。

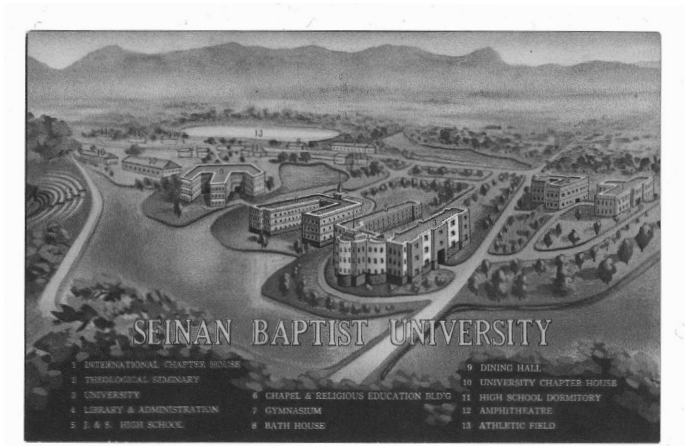
本展では、西南学院の干隈校地での歩みを伝える資料や写真から、西南学院と干隈の思い出を振り返る。



## 第1章 幻に終わった大学設立計画

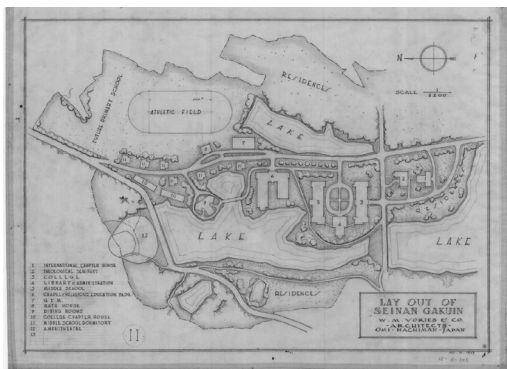
1934年、世界バプテスト大会が開かれ、これに出席したミッションボード総主事マドレーらが学院に来校し、学院の将来計画等について協議が行われ、大学設立についても取り上げられた。米国南部バプテスト連盟の教育関係者と数回にわたる懇談・協議の結果、学院は1937年に大学設立の方針を固める。そこで、まず郊外に約132,000㎡（4万坪）の敷地を求めて、理想的な一大学園の建設を計画した。その候補地として、早良郡田隈村干隈（現在の福岡市城南区干隈）の高台地区を適当と認め、買収を進めた。学園建設地として学院名義で買収を進めた場合、地価の値上りを招く恐れがあった。このため、学院は数人の土地所有者から個人名義を借りて買主とし、後日、必要な面積を確保した後に学院の名義に変更するという方法で、1937年から3回に分けて買収を行った。当時、学院にこのような広大な土地を購入する資金はなかったため、福岡バプテスト教会員で資産家の松隈あい（現在の福岡市城南区干隈）に依頼して2万4千円余りを借り受けた。干隈校地買収のための借入金総額は3万5,129円80銭となり、返済は自己資金およびミッションボードからの援助金によって支払い、1939年2月から1945年1月まで、4回に分けて支払いを完了した。

1937年7月、西南学院はヴォーリズ建築事務所に依頼し、西南学院バプテスト大学の構想を内外に明らかにし、西南学院バプテスト大学構想の校舍鳥瞰図をもとに絵はがき（画像1）を制作している。



【画像1】西南学院バプテスト大学鳥瞰図絵はがき  
1937年 / 西南学院史資料センター所蔵

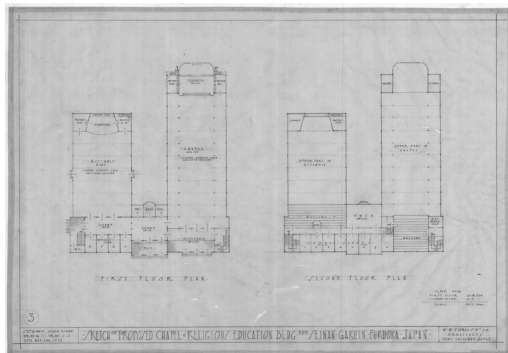
多くのミッション・スクールや教会の建築を手がけたことで知られる W. M. ヴォーリズ (William Merrell Vories) は、西南学院においても 1921 年竣工の旧学院本館 (現・大学博物館) をはじめとし、校舎や宣教師住宅などを設計した。新たに整備される干隈校地にもヴォーリズ建築事務所設計の校舎や施設が作られる予定であった (画像 2)。



【画像 2】西南学院バプテスト大学配置図 (複製展示)  
1937 年 / 株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所蔵

西南学院バプテスト大学配置図  
(番号は配置図の番号に対応)

1. 国際会館
2. 神学科
3. 大学
4. 図書館及び本部
5. 大学予備教室
6. チャペル宗教教育館
7. 体育館
8. 浴場
9. 食堂
10. 大学学友館
11. 高等学校寄宿舎
12. 野外劇場



【画像 3】チャペル宗教教育館平図面 (複製展示)  
1937 年 / 株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所蔵

干隈校地に建設が予定されていたチャペル (画像 3) は、西新校地のチャペル (現・大学博物館 2 階講堂) よりも多くの人数を収容できる縦長の空間であった。配置図左上には小学校の建設予定地がみとめられる。配置図右側の住宅が並ぶ一角には国際会館があり、1937 年に早くも国際交流を見据えた施設が準備されていたことは注目される。また、ひとときわ目を引く丸いドーム型の建物は野外劇場である。本構想が実

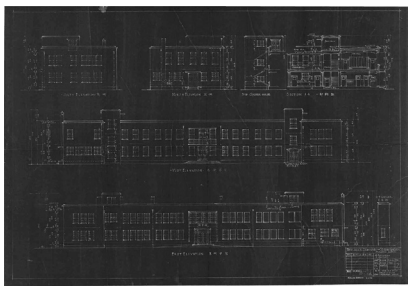
現していれば、この場所は劇やコンサートの上演など本学の文化芸術の中心になっていたのではないだろうか。

しかし、日中戦争が始まり、大学設立計画は中止を余儀なくされる。戦時中は食糧難のため、干隈校地は学生・生徒の勤労作業の場となり、農作物が栽培された。

## 第2章 干隈キャンパスと神学部

西南学院バプテスト大学構想は実現に至らなかったものの、戦後、干隈校地には神学科の校舎や施設が作られた。神学科の校舎は、福岡市大名町（現在の福岡市中央区赤坂）にあった福岡バプテスト神学校の校舎を西新校地内に移築して使用していた。しかし、建物が老朽化し、増加する図書を収容しきれなくなったことから、ミッションボードの援助を得て、干隈校地に新築移転することになった。

西南学院バプテスト大学構想を手がけたヴォーリズ建築事務所によって作られた神学館の設計図が残っている（画像4）。設計当初より、玄関に「神学館」の表札（画像5）が掲げられる予定であったことがわかる。本資料は、神学科の近藤定次教授の依頼により、元神学科科長の下瀬加守（雅号：居易）が揮毫したものである。

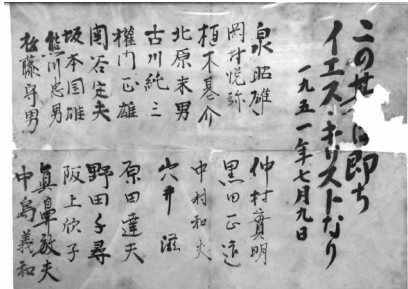
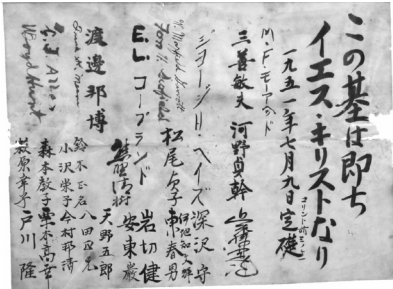


【画像4】神学館立面図・断面図  
1952年 / 西南学院史資料センター所蔵



【画像5】神学館の表札  
1955年 / 西南学院史資料センター所蔵

1951年10月に神学寮、続いて1955年7月に神学科校舎神学館が完成した。神学寮建築に際して埋められた定礎箱には、聖書や写真、当時の神学科教員と学生の寄せ書き（画像6）が入れられていた。「この基は即ちイエス・キリストなり」（『コリントの信徒への手紙一』3章11節）の聖句が記された寄せ書きには、神学科教員と学生が名前を記している。



【画像 6】神学寮の定礎箱に入っていた当時の神学専攻科教員・学生の寄せ書き  
1951年 / 西南学院史資料センター所蔵

1966年に大学文学部神学科および文学専攻科神学専攻が廃止され、神学部神学科および神学専攻科が設置された。1955年に干隈校地に移転し、2001年に再び西新に移転するまでの約45年間、この地で多くの神学生が学んだ。

### 第3章 憩いの場としての干隈キャンパス

西新校地は街中にあり、宗教行事や精神修養のためには適当ではない面もあるため、学院は閑静な森と池に囲まれた干隈校地に修養会館を建設することになった。西新校地の高等学校の西校舎が改築のため解体されたため、その古材を使用し、資金はミッションボードからの援助によって干隈修養会館（画像7）が建設された（1952年第1期工事、55年第2期工事完了）。宿泊施設には200人の宿泊が可能であり、大学のサークルやゼミナールのイベント、新入生歓迎のための「すき焼きパーティ」などが行われ、「山の家」と呼ばれて親しまれた（画像8）。



【画像 7】干隈修養会館山の家  
1952年 / 西南学院史資料センター所蔵



【画像 8】山の家でのすき焼きパーティ  
1968年 / 西南学院史資料センター所蔵

また、西新校地に総合運動場の用地を確保することは困難であったため、学院は干隈校地の隣接地を買収し、運動場を建設する計画を立てた。1960年11月に完成したグラウンドには、野球・ラグビー・バレーボール・テニス等のコートが設けられた。干隈グラウンドでは学生や教職員の親睦を深める体育祭も行われ、学院の憩いの場として愛された（画像9）。

1999年3月30日、学院と福岡市および福岡市土地開発公社との間で西南社の湖畔公園整備事業の土地売買に関する覚書調印式が行われた。干隈校地の跡地は、湖畔公園として整備され、その名称については、福岡市から「公園の名前を考える際に、是非とも西南の名前を残したい」と話があったことから、「西南社の湖畔公園」とすることに決まった。

神学部は2001年4月に干隈校地から西新校地に移転した。2003年12月13日には「干隈グラウンドさよならセレモニー」が行われ、干隈グラウンドで主に活動していた大学硬式野球部、ラグビー部などの部員やそのOB・OGらが集い、当時の思い出を語り合った。干隈校地の跡地は新たな憩いの場になっている（画像10）。



【画像9】干隈グラウンドで行われた体育祭  
1968年 / 西南学院史資料センター所蔵



【画像10】干隈校地跡地（現・西南社の湖畔公園）

## 補遺

### 西南学院における建築図面のデジタルアーカイブ

本展の主要な展示資料のひとつが西南学院バプテスト大学構想関係図面である。本資料は、2022年5月に株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所（以下ヴォーリズ建築事務所）の大阪本社において筆者が11点の原図を確認し、その後、ヴォーリズ建築事務所との協力のもと、デジタル化したものである<sup>1</sup>。西南学院バプテスト大学構想については、これまで鳥瞰図絵はがき（画像1）および校舎配置図の写し（『西南学院七十年史 上巻』397頁掲載）の2点のみが確認されていた。後者は、今回デジタル化を行った校舎配置図の原図をもとに、施設名称を日本語で記載したものである。今回の調査により、校舎配置図の原図1点および各施設の図面10点を新たに確認できた。これにより、これまで不明であった施設の内容が明らかとなった。

11点の図面の内容は表のとおりである（表1）。これらの図面はいずれも鉛筆書きされたトレーシングペーパーであり、このうち校舎配置図には黄緑色の彩色が施されている（画像11）。図面には1937年5月1日から5月10日の日付が記されており、作図およびトレースを行った所員のサインがみとめられる。ヴォーリズの建築図面には、現場で描かれたであろう原寸図などを除き、多くの実施設計図に担当した所員たちのサインが残されている。しかし、それらのサインにはごく初期を除き、「W. M. V.」というヴォーリズのサインはほとんどみとめられない。これはヴォーリズ建築事務所的设计製図における特色の一つである。保管されている図面の中にはヴォーリズが描いたと思われるフリーハンドのエスキスが含まれており、こうしたエスキスをもとにチーフデザイナーやドラフトマンたちがデザインし、実施図として仕上げるという流れが、ヴォーリズが率いた建築事務所の特徴的な設計手法であったという<sup>2</sup>。

---

1 ヴォーリズ建築事務所は明治の終わり頃、ヴォーリズ合名会社の名で本格的に活動を開始し、戦後は近江兄弟社内の建築部という位置付けで設計を行っていた。しかし経営上の理由から、建築部門は廃止されることとなり、1961年に経営的に独立し、大阪を本社とする一粒社ヴォーリズ建築事務所が発足した。それまでに描かれた膨大な建築図面は、独立後も近江八幡の近江兄弟社に保管されていたが、1975年に大阪芸術大学建築学科に移され、山形政昭氏のもとで調査研究が開始された。その後、2014年にヴォーリズ建築事務所に移されることとなるが、公益財団法人近江兄弟社から、浅小井校地にヴォーリズの残した史料を編纂するために史料館をつくるので共同で使わないかとの申し出があったことから、現在近江八幡で保管されている（一粒社ヴォーリズ建築事務所編『ヴォーリズ建築図面集』創元社、2017年、350頁）。

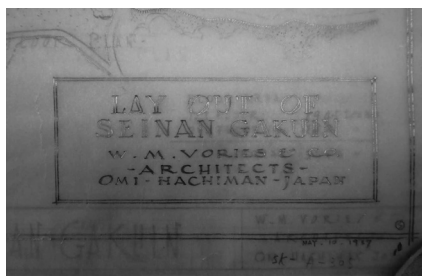
2 上掲書、350-351頁。

【表 1】西南学院バプテスト大学構想関係図面

No.	建物名・図面内容	日付	サイン	スケッチ番号	縮尺
1	SKETCH OF PROPOSED COLLEGE BLDG FOR SEINAN GAKUIN FUKUOKA JAPAN	1937年 5月 1日	DR = M. S. TR = S. S.	SK#A-305-2	1/200
2	SKETCH OF PROPOSED MIDDLE SCH BLDG FOR SEINAN GAKUIN FUKUOKA JAPAN	1937年 5月 1日	DR = M. S. TR = K. TO.	SK#A-305-1	1/200
3	SKETCH OF PROPOSED CHAPEL & RELIGIOUS EDUCATION BLDG FOR SEINAN GAKUIN FUKUOKA JAPAN	1937年 5月 3日	DR = M. S. TR = S. S.	SK#A-305-5	1/200
4	SKETCH OF PROPOSED LIBRARY BLDG FOR SEINAN GAKUIN	1937年 5月 5日	DR = S. S. TR = S. S.	SK#A-305-4	1/200
5	SKETCH OF PROPOSED GYMNASIUM FOR SEINAN GAKUIN	1937年 5月 3日	DR = M. S. TR = S. S.	SK#A-305-6	1/200
6	SKETCH OF PROPOSED DINING ROOM FOR SEINAN GAKUIN	1937年 5月 4日	DR = M. S. TR = K. TO.	SK#A-305-7	1/200
7	SKETCH OF PROPOSED THEOLOGICAL SEMINARY FOR SEINAN GAKUIN	1937年 5月 5日	DR = S. S. TR = S. S.	SK#A-305-3	1/200
8	SKETCH OF PROPOSED INTERNATIONAL CHAPTER HOUSE FOR SEINAN GAKUIN	1937年 5月 5日	DR = S. S. TR = S. S.	SK#C-859-1	1/200
9	SKETCH OF PROPOSED COLLEGE CHAPTER HOUSE FOR SEINAN GAKUIN	1937年 5月 3日	DR = M. S. TR = K. TO.	記載なし	1/200
10	SKETCH OF PROPOSED CHUGAKKO DORMITORY (TYPICAL SECTION) & BATH HOUSE FOR SEINAN GAKUIN	1937年 5月 5日	DR = T. K. TR = 記載なし	SK#772	1/200
11	LAYOUT OF SEINAN GAKUIN	1937年 5月10日	記載なし	SK-A-305	1/1200

・サインの略号は以下の通り。

DR = drawn、TR = tracedの意。M. S. = 佐藤正夫、S. S. = 不明、K. TO. = 豊田清次、T. K. = 川野徳恵

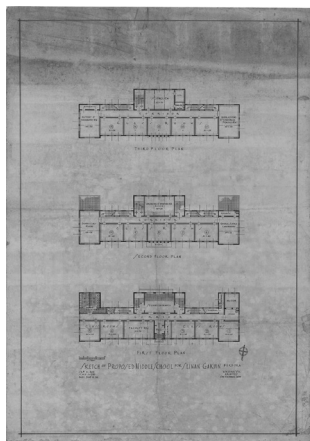


【画像 11】西南学院バプテスト大学配置図  
1937年 / 株式会社一粒社ヴォーリス建築事務所蔵  
(右)同部分拡大図

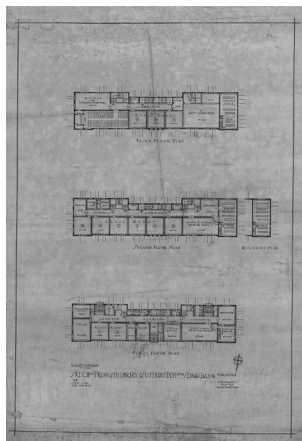


西南学院史資料センターでは、2022年度に資料センター所蔵の図面79点のデジタル化を行った。その内訳は戦前の西新校地図面3点（画像12、13）、戦後の干隈校地図面50点（画像14、15）、大学関係図面11点、高等学校関係図面15点の計79点となっている。このうち干隈校地関係図面の半数以上にはヴォーリズ建築事務所の署名がみとめられ、図面中に署名が入っていないものについてもヴォーリズ建築事務所が設計に関与したものと推測される。

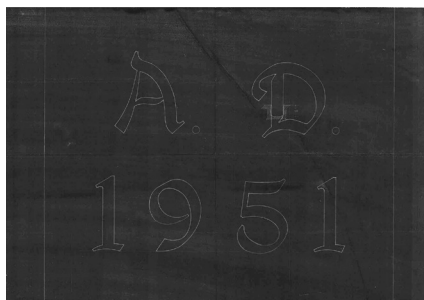
西南学院史資料センターでは、今後も資料のデジタルアーカイブ化に取り組み、デジタル化した資料を公開していきたい。



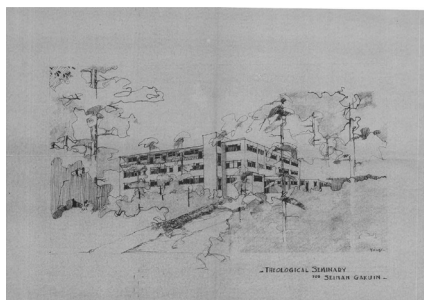
【画像12】 中学部校舎平面図  
1936年6月8日 / 西南学院史資料センター所蔵



【画像13】 図書館・文科平面図  
1936年6月8日 / 西南学院史資料センター所蔵



【画像14】 神学寮定礎文字  
1950年頃（日付記載なし） / 西南学院史資料センター所蔵



【画像15】 干隈校地神学館外観  
1950年頃（日付記載なし） / 西南学院史資料センター所蔵